

梅雨に入り、スッキリしないお天気が続いています。体調に気をつけてお過ごしください。現在会員登録数 1,999 人さま。次号は 7 月 20 日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 70

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第 30 号の原稿を募集しています。お申し込み、詳細は ↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/06\\_res-pub/04\\_journal/boshu.html](http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html)

◇「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要 第 29 号」を販売しています。

発行：当財団 2016 年 3 月 A5 判 116 頁 1300 円＋税

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

\*\*\*\*\*

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Yukiko's Talk

\*\*\*\*\*

『ぼくのなかのほんとう』 パトリシア・マクララン/作 若林千鶴/訳

たるいしまこ/絵 リーブル 2016年2月（原書2013年）

対象年齢：小学校中学年以上

あらすじ：ロバートは音楽家の両親が演奏旅行に出かけるため、母方の祖母で、一人暮らしのマッディの家で夏休みを過ごす。両親はマッディと打ち

解けていなかったが、ロバートは親友だと思っていた。そこでキャンプに出かけるが、マッディがけがをしまい、飼い犬のエリーが医者へのヘンリーを呼んでくる。そんな中でロバートは、マッディや両親に対する自分の「ほんとうの気持ち」に気づいていく。

F：『のっぼのサラ』（原書1985年、福武書店1987年）から一貫している「家族」をテーマにした物語でした。

Y：マッディ（祖母）と母、母とロバート、ともに問題を抱えています。

F：お互いが愛情を感じているのに、それを言葉に出して、拒絶されるのが怖いため、一言が言い出せないという状況がひしひしと伝わってきました。

Y：気丈で自由な考えを持つマッディが骨折して不安になった時、初めて自分と娘の軋轢について語ります。そして、ロバートはその軋轢が母との関係にも影を落としていることを理解します。

F：結末でロバートが「母さんのこと、大好きだよ」と電話で告げるシーンは、ずっと心のなかに抱えてきた母親への気持ちをやっと言葉にすることができた喜びと安堵感が伝わり、胸に迫るものがありました。

Y：ロバートの母は、子どもの頃、父親が出ていってしまい、人間不信に陥るとともに、バイオリンは自分を裏切らないと思って生きてきました。子どもでありながら、母の孤独を理解し、歩み寄っていく姿が興味深かったです。

F：マクラ克蘭の作品では、大人も子どもも問題を抱え、子どもがその問題を打破するエネルギーと、親やまわりの大人を思いやる気持ちを持っているという描かれ方が多くあります。この作品もその一つと言えますね。

Y：マッディと近所に住む医者へのヘンリーの関係にも多様な家族のありようを見ました。お互いの生活を尊重しながらも、ヘンリーが夕食を作りマッディを訪ねる。ロバートの成長を見守る頼もしい存在です。

F：ロバートの両親がマッディに不信感を持つ理由に、マッディが野生動物たちと交流できるということがありました。この部分だけ、ファンタジー性が強く、浮いた感じがしたのは残念でした。

Y：反対に音楽の使われ方はうまいと思いました。ロバートがラジオで母親の演奏を聞いて母を思う部分は、二人の物理的かつ心理的な距離を象徴的に表現していると思ったのです。

\* 今回のゲストは武庫川女子大学准教授の福本由紀子さん（F）です。

\*\*\*\*\*

## 《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

### 第10回「葡萄水」

#### 現代の民話

宮沢賢治の生前には発表されず、原稿が残されていた作品です。

畑仕事の手があいて、西の野原へ出かけられるようになった耕平は、夕方、野葡萄をいっぱい背負って帰ってきます。夜には、葡萄のつぶをむしって、みんな桶に入れて、ふたをします。3日目には、おかみさんが、桶から半分潰れた葡萄の粒を取り出しては、手でしぼります。まっ黒な果汁が、見る見るうちに鉢にたまります。見ていた耕平が、いきなり高くさげびます。——「じゃ、今年あ、こいつさ砂糖入れるべな。」

〈「罰金取らえらんすじゃ。」

「うんにゃ。税務署に見つけられれば、罰金取らえる。見つけられないば、すっこすっこど葡ん萄酒呑む。」〉

これは、酒税をのがれて作られる密造酒です。砂糖入りの汁を布でこして、ビールびん 20 本ほどに詰めました。ところが6日後、家のなかでポツ、ポツと音がします。たいていの瓶がはじけて、葡萄酒が流れ出したのでした。

明治以来全国的に分布した「密造酒」主題の民話群を背景にしているとは、天沢退二郎の解説です（ちくま文庫版『宮沢賢治全集』6）。松谷みよ子著『現代の民話』（2000年）は、税務署と、どぶろく作りを禁止された民衆とのはげしい攻防がさまざまな笑い話などを生んだと述べています。

「葡萄水」には、聞き手に語り聞かせる口調があります。「耕平は髪も角刈りで、おとなのくせに、今日は朝から口笛などを吹いています。」とはじまる（一）のしめくくりは、「今に晩方また来て見ましょう。みなさんもなかなか忙がしいでしょうから。」です。

さて、「葡萄水」には、2種類の原稿があります。初期形の主人公は、耕平ではなくて清作です。清作といえば、「かしわばやしの夜」（本メルマガ NO. 66 第6回参照）の主人公です。「葡萄水」にも歌がはさまれますが、「かしわばやしの夜」の歌合戦で、柏の木たちは、「清作のうた」を歌い出し、「納屋にしまった葡萄酒は／順序ただしく／みんなはじけてなくなった。」とからかうのです。清作は、「やかましい。きさまら、なんだってひとの酒のことなどおぼえてやがるんだ。」と、くやしがるのですが。（馬車別当）（本文の引用は、宮川健郎編集『名作童話 宮沢賢治 20 選』春陽堂書店によりました。）

\*\*\*\*\*

### 《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 70

\*\*\*\*\*

#### その10 学校でのおはなし会（2）おはなし会を行う前に

学校でのおはなし会の母体は、学校によって千差万別です。子ども文庫、図書館に所属するおはなしグループ、PTAの有志や図書委員などがあります。

私は、活動はグループが望ましいと思っています。個人ではどうしても絵本やおはなしの選び方が独りよがりになりますし、活動の幅が広がりません。特定の宗教や思想に偏った選書になる可能性も否めません。

子ども文庫や公共図書館で既におはなし会を経験し、練習を積んでいる人の場合は、一定のおはなしや本の知識もあり、おはなしの語り方や絵本の読み方についても、またプログラムの組み方についても公的な機関やグループ内で研修を受けていると考えられますが、PTAが主体の場合は、活動年数も限られ、研修体制も整っていない場合が多いのが現状です。

しかしながら、どの学年に何を選ぶか、どのように語ったり読んだりするかは、子どもたちが絵本やおはなしを楽しめるものと認識するかどうかと密接

にかかわっており、家で絵本を読んでいるから、人前でも読めるという単純なものではありません。

理想的には地域の公共図書館や学校に司書がいれば、その司書から研修を受けることをおすすめします。それが難しい場合は、『読書ボランティア活動ガイド』（広瀬恒子/著 一声社 2008年12月）等のテキストを読み合う、自分たちで勉強会を重ねるなどしてから子どもの前に立つことが必要です。

絵本の場合、子どもの前に立つ前に、まずは100冊程度読んでみる、絵本についてグループで話し合うなどの勉強会が考えられます。また、研修後も、選んだ絵本やおはなしについて、プログラムについて、語り方、読み方について、グループの前でリハーサルをし、率直な意見交換を重ねることで、より質の高いおはなし会が子どもたちに届けられることとなります。

グループでの勉強会を続けることはたいへんですが、そこでの話し合いが絵本観や子ども観を深く学ぶことにつながり、楽しい学ぶ時間にもなります。

\* 次号は「その10 学校でのおはなし会（3）」の予定です。

質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。（Y）

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

神戸三宮のギャラリー島田で6月23日まで開催されている「大畑いくの×スズキコージの北野窓展」に行ってきました。

1階は大畑いくのさんのフロアです。入口すぐの壁には、星座が描かれた壁掛けがかかっています。中に入ると「星をひろう人々」「人魚の誕生日」「むかしむかし」などの大きな油絵作品が目飛び込みます。幻想的な絵の中に物語が想像されて楽しいです。画面いっぱいに描きこまれた絵はエネルギー感、色使いや人物の表情から静けさや穏やかさも感じられる点が不思議です。

油絵のみでなく、刺繍画もありました。「KITANO DIARY」というフリーペーパーのために描かれた原画で、黒地に夜景が描かれ、ちりばめられたミシン刺繍の花や星と、太い糸を使って刺された木や大輪の花に、2羽の鳥と楽しそうな2人の人が布でコラージュされています。「ウラオモテ」という作品は、刺繍の表と裏で違う絵として成り立っていておもしろかったです。

ペイントされた小さな腰掛けや、人形の入った箱、天井にはダンボールの羽ばたく鳥もありました。娘さんのデザインでつくられたという鳥の形のバッグなど、「自由」をイメージする鳥をモチーフにしたものがたくさんありました。

地下はスズキコージさんのフロアです。下に降りる階段にもチョークで絵が描かれていて導かれているようです。中に入ると、大きな作り物の人が立ち、天井からは色とりどりの旗が吊るされ、床には絵の具や紙ふぶきが散らばり、壁や柱にはライブペインティングの大きい作品がびっしり貼られています。



18歳選挙権が実施される。新聞に「18歳以上は世界の国の9割」とあったが、45年程前に私が卒論を書いた時には、イギリス、フランス、イタリア、西ドイツは21歳であった。世界の大き過ぎる変化に驚く。  
また、卒論には、憲法に定める「成年者による普通選挙」と、民法の「年齢20歳をもって成年」の「成年」を必ずしも同一に解釈する必要はないとし、18歳選挙権に触れていた。今や高校生にも認められた権利だが、「普通選挙」とは男子のみをさす言葉であったことは忘れずにいたい。(A)

---

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
  - 配信の登録・解除・変更は、  
[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ
  - このメールの送信アドレスは配信専用です。
  - 記事の無断転載はご遠慮ください。
- 

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>  
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内  
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

---